

事業所職員向け 児童発達支援・放課後等デイサービス自己評価表

公表：令和8年2月22日

事業所名：療養デイ思いやりキッズ

職員数：7名 回収数：7枚 回収率：100%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	2	1		定員人数と職員が入ると狭いと感じる。身体をぶつけたり転倒のリスクがないとは言えない。限られたスペースの中で動線を工夫し、安全に配慮しているが、人数や活動内容に応じたスペースの使い分けについて、さらなる工夫が必要である。
	2	職員の配置数は適切であるか	7				基準人員より多くの職員を配置し対応している。
	3	事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	1			トイレや入口、ドアなどバリアフリーではない部分には台やスロープ等を使用し対応している。引き続き安全性の確認と改善に努めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	2			消毒や清掃、空調などに配慮している。引き続き感染対策および衛生管理の徹底に努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5	2			PDCAサイクルは実施不十分と感じる。質を高めていく上で必要と感じる。職員間での共有や振り返りを強化し、継続的な業務改善に繋げていく必要がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	1			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	3	1	1	今後、第三者評価の導入を検討し、外部の視点を活用した質の向上に取り組んでいく必要がある。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7				毎月、法人全体で実施される研修に参加し、受講後はレポートを提出している。継続的に研修の機会を確保し、職員の知識、技術の向上に努めていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画、放課後等デイサービス支援計画を作成しているか	6	1			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3	2	1	1	重心児のため、標準化されたアセスメントツールを使用していくのはやや難しいか。観察、記録、個別支援計画により適応状況の把握に努め、児童の特性に応じた評価方法の検討、充実を図っていく。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われているか	6	1			
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7				
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	4			活動内容のバリエーションについて十分とは言えず、今後さらなる工夫を行い、内容の充実を図っていく必要がある。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成しているか	7				
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7				毎日、支援前に打ち合わせを実施し、利用児の体調や医療的ケアの内容、支援上の留意点を確認するとともに、職員の役割分担を明確にしている。情報共有を徹底し、安全で安心できる支援の提供に努めている。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		5	2		支援前確認、支援中の共有は実施しているが、支援後の振り返りについては十分とは言えず、今後の改善が必要である。時間確保や仕組み化については今後の課題である。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			1	
19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7					
	20	サービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7				
	21	学校との情報共有（年間計画、行事予定、下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応等）を適切に行っているか	7				
	22	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	6	1			

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	7				
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4	2		1	支援学校との情報共有の機会を増やし、より連携を深めた支援に繋げていく必要がある。
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5	2		1	支援学校との情報共有の機会を増やし、より連携を深めた支援に繋げていく必要がある。
	26	他の児童発達支援センターや放課後等デイサービス、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5		1	1	協議会へ加入し、会議や研修会に参加しているが、職員全体での参加、共有については今後の検討課題である。外部研修への参加対象を広げ、職員全体のスキル向上に繋げていく必要がある。
	27	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	1			地域児童との交流会を実施しているが、さらなる交流機会の拡充が今後の課題である。
	28	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	5	1	1		市の自立支援協議会への参加についても検討し、地域全体での連携強化に努めていく
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7				児童の体調や様子、支援内容については、送迎時の報告や連絡帳を通して保護者へ丁寧に伝えし、共通理解が図れるように努めている。また体調の変化や支援上の気づきがあった場合は、都度保護者へ報告・相談を行い、安心して利用していただけるよう連携を図っている。
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	2	3	1	1	ペアレント・トレーニングについての学ぶ機会があれば良いと思う。現状、実施していないが、重症心身障害児の特性を踏まえ、日常的な相談対応や助言を通じた保護者支援を行っている。
保護者への説明責任等	31	支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7				
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	1			
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	2	1	1	保護者会は実施しているが、参加促進や保護者同士のつながりを深める取り組みについて、さらなる工夫が必要である。
	34	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7				
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7				
	36	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7				
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7				
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	1	2		現時点では、実施できていない。今後は事業所の特性や安全面に配慮しながら、開かれた事業運営について検討していく。
非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7				
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7				実際の利用場面を想定し、年2回、児童参加型の災害訓練を実施している。
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7				契約時に服薬内容やてんかん発作の有無、発作時の対応方法などについて保護者より詳細に聞き取りを行い児童の状況を把握している。また、体調変化や不明な点がある場合は必ず保護者へ確認し安全に安心して利用していただけるよう継続的な情報共有に努めている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7				ヒヤリハットが発生した際は、速やかに報告書を作成し、職員間で共有している。内容については職員間で振り返りを行い、原因分析と再発防止策を検討。再発防止に向けた取り組みを通して安全管理の徹底と支援の質の向上に努めている。
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7				
45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	7				身体拘束は原則行わない方針としている。やむを得ず必要となる場合には保護者へ十分な説明を行い同意を得たうえで、個別支援計画に記載する体制を整えている。また、安全確保のための姿勢保持などについては保護者へ同意を得ている。これまで身体拘束を行った事例はない。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和8年2月22日

事業所名：療養デイ思いやりキッズ

保護者等数（児童数）：12名 回収数：12枚 回収率：100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	1		1	十分に確保されているかはわからない。	安全確保と活動しやすい環境づくりに努めます。また空間の使い方を工夫し、安心して過ごせる環境を整えてまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12					
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	12					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12					
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	12					
	6 個別支援計画に沿った支援が行われているか	12					
	7 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	12					
	8 保育所や小学校との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10			2		
保護者への説明等	9 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12					
	10 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	12					
	11 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11			1		
	12 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	1		3		
	13 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	12					
	14 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12					
	15 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	12					
	16 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	12					
非常時等の対応	17 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	12					
	18 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12					
満足度	20 子どもは通所を楽しみにしているか	12				いつもニコニコしています。	嬉しいご意見ありがとうございます。今後も安心して楽しく通所できるよう、一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。
	21 事業所の支援に満足しているか	12					

*1 この部屋で何をするかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。